

水稻育苗用ロックウールマットの効果確認試験

JAみついし

澤井 久志



播種機での灌水



5/1状況



5/23状況



5/31田植え

試験目的

水稻育苗用ロックウールマットの効果確認試験

試験作物 及び品種

水稻

試験資材 及び数量(規格)

こめパワーマット 5ケース

慣行資材

自家土

試験結果

(1)作業性について(慣行品との比較)

- ・播種時に 2L の水を入れなければならないため、播種機の改造に少し時間がかかった。(通常は 600ml 程度)
- ・灌水タイミング・灌水量が土苗と異なるため慣れるまでに時間がかかった。
- ・移植時の苗運びは土苗の 1/3 程度に感じられるほど軽かったため作業性はとてもよかった。

(2)作物の生育状況または、収穫への影響

- ・播種当初は土苗に比べ、2～3 日程度生育が遅いと説明を受けていたが、今年は春先が悪天候だったため、説明以上の差がつき、生育するかどうか不安だった。
- ・徐々に生育が追いつき、田植え時には一部土苗より生育しているものもあった。
- ・最終的な生育・収量については、差はなかった。

(3)栽培管理上の優位点あるいは問題点について

- 【優位点】：灌水作業回数の軽減。
- 【問題点】：灌水作業タイミングの難しさ。初期生育の遅れによる不安。

モニター感想

- ・自分で床土を作成しており、その作業を省力化するために今回試験することとなった。
- ・播種時に 2L の水を入れなければならないため、播種機の改造に少し時間がかかった。(通常は 600ml 程度)
- ・灌水タイミング・灌水量が土苗と異なるため慣れる

までに時間がかかった。

- ・殺菌剤(ダコニール)は通常、箱並べ後に散布しているが、今回については、播種同時で薬剤散布を行った。そのような作業の差だったのかわかるとは不明だが、殺菌剤の効きが少し甘く、カビが発生しているところがあった。
- ・移植時の苗運びは土苗の 1/3 程度に感じられるほど軽かったため作業性はとてもよかった。
- ・最終的な苗の生育はとてもよく、移植には問題がなかった。
- ・今後についても、継続して使用し、省力化を図っていきたい。

JA担当者の感想(生産資材燃料課 根城係長)

- ・生産者にとって、育苗は重労働であるため、このような省力化資材を普及できればと思い試験をお願いした。播種初期は悪天候もあり、説明された以上に生育差があったため、不安になったが、徐々に成長が追いつき、問題なく移植できる状態になったため安心している。
- ・生産者に聞き取りした際には、事前に箱に詰めておける作業性の良さ、育苗時の重さ軽減等この商品のメリットを実感していただいていると感じ、普及性があると感じた。
- ・更に普及性を高めるには、全道の使用事例を収集し、使用マニュアルや Q&A の充実化を図り、生産者の集まりで説明・PR をすべきだと感じる。

今後の使用について

継続して使用したい。

1 クリント

2 高温対策

3 害虫忌避効果

4 滑雪効果

5 生分解性マルチ

6 その他

7 酪農資材